

大きな期待寄せる中

日韓トンネル特集

を求めたい意向を表明しています。韓国でも盧泰愚大統領が訪日に際して日韓トンネル

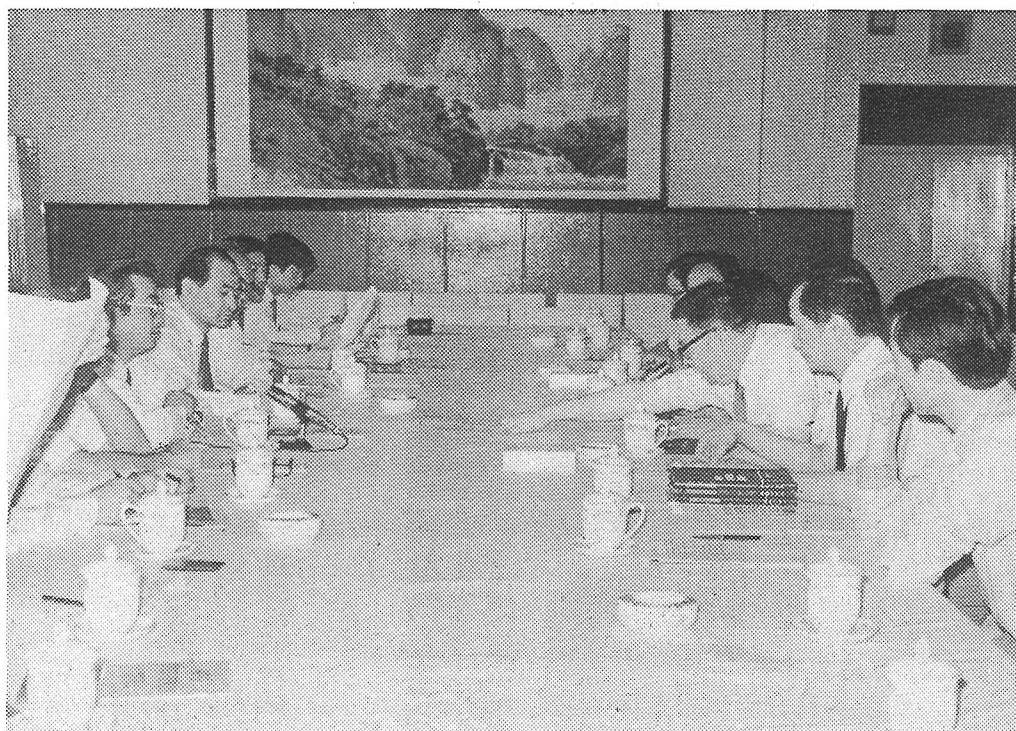
国際ハイウ エー構想

大きな期待寄せる中ソ

1989、90年の活動

- 1989年
- 1月1日 国際ハイウエー機関紙「本郷路」新年号発行 (月刊)
 - 1月9日 韓国・陸上ボーリング終了 (巨済郡明洞里、300㍑)
 - 1月15日 韓国・陸上ボーリング終了 (巨済郡多大里、400㍑)
 - 1月24日 第2回国際海洋水産専門家会議 (東シナ海シンポジウム) (長崎市)
 - 2月1日 韓国・陸上ボーリング終了 (巨済郡富春里、332㍑)
 - 3月13日 日韓トンネル研究会第10回理事会
 - 4月1日 「本郷路」縮刷版発行 (創刊号～第50号)
 - 4月3日 対馬海峡における藻場造成、付着生物調査 (～9日、対馬・浅茅湾近海)
 - 4月26日 日韓トンネル研究会第11回理事会
 - 5月24日 日韓トンネル研究会第7回総会、研究調査報告会 (東京・サンケイ会館)
 - 5月28日 中国ハイウエー予備調査団、中国東北部を現地踏査 (～6月9日)
 - 7月7日 日韓トンネル研究会九州支部第7回総会、研究調査報告会 (福岡・博多都ホテル)
 - 7月8日 日韓トンネル対馬調査斜坑の地鎮祭 (対馬・厳原町阿連)
 - 7月19日 斜めボーリング開始 (対馬・厳原町阿連)
 - 8月1日 国際ハイウエープロジェクト・パンフレット作成
 - 8月10日 名護屋浦の微生物活性調査 (佐賀県呼子町)
 - 8月23日 日韓トンネル名護屋調査斜坑第2期掘削工事終了 (佐賀県鎮西町)
 - 9月2日 斜めボーリング終了 (対馬・厳原町阿連、200㍑)
 - 9月4日 東京国際会議 (～5日、ISC・IHCC共催)
 - 10月1日 日韓トンネル名護屋調査斜坑、坑内コンクリート2次覆土工事の開始 (佐賀県鎮西町)
 - 11月7日 中国ハイウエー計画予備調査報告会 (中国・北京市)
 - 11月21日 日韓トンネル日韓合同報告会 (～22日、韓国・ソウル、釜山)
- 1990年
- 1月25日 日韓トンネル研究会第12回理事会
 - 2月中旬 日韓トンネル調査斜坑第2期工事全工事終了
 - 2月23日 日韓トンネル研究会九州支部第10回理事会
 - 3月13日 国際ハイウェイ建設事業団壱岐事務所水文調査開始
 - 4月1日 花博に財団法人亜細亜技術協力会・日韓トンネル委員会が参加 (大阪で)
 - 4月9日 世界言論人会議で国際ハイウエープロジェクトを発表 (～20日、モスクワで)
 - 5月21日 日韓トンネル研究会第8回総会、研究調査報告会

徐々に進む緊密な交流 中国で予備調査を実施



昨年11月北京で開かれたプリ・フィージビリティ・スタディーの日中報告会

反響呼んだ日 韓合同報告会

日韓トンネルは日本だけで進められるのではない。日本と韓

国との綿密な打ち合わせが前提となる。さらに国際ハイウエー事業ともなれば、それは日韓両国だけでなく、中国、ソ連、さらには東南・西南アジア諸国までその範囲が広がるわけで、その

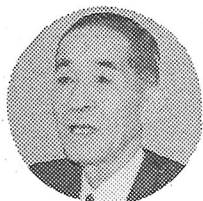
これらの国々との緊密な交流が必須だ。実はそうした交流が徐々に進んでいるのである。日韓トンネルで言えば、韓国では昨年二月の韓国巨済島のボ

にはソウルと釜山において日韓両国の学者、有識者を交えた合同報告会がもたれた。この中で釜山大学の金學魯教授は「韓日海底トンネルは韓日間および韓国内の交通・輸送体系に一大革新をもたらすだろう。従来のような海上・航空に依存する二元体制から、海底トンネルを通じた三元体制に変わるようになり、韓日トンネルがこれまでの交通・輸送量を大きく吸収するからである。トンネル交通の迅速性、安全性を考えれば当然のことだ」と強調した。この会議は韓国国内でもKBSや釜山日報などのマスコミが取り上げるほど大きな反響を呼んだ。

世界言論人会 議で構想紹介

一方、中国ハイウェイ計画に關しては昨年五月から北京・丹東間約千キロのプリ・フィジビリティ・スタディー(予備実施可能調査)が実施され、十一月七日にその調査結果報告会が北京飯店会議室で開かれた。日本側からは中国ハイウェイ調査特別委員会の谷藤正三委員長(元北海道開発庁事務次官)ら

今後資金の問題 が重要になる



氏 戦争中の昭和十六、七年ごろ、大学の鉄道の講義の中で先生が「いすれ、日本と大陸を結ぶトンネルを掘るんだ」と言いました。その前後の脈絡は覚えておりませんが、その一言だけは鮮明に頭の中に残っています。その時は本当に驚きましたが、当時としても十分あり得た話でした。今こうして日韓トンネルプロジェクトにかかわっているのも何かの巡り合わせといえるかもしれません。日韓トンネルは今後資金の問題が重要になってくると思います。若戸大橋や本四架橋にしても何十年という長い年月をかけて、やっと完成したて

識者の声



朴大統領に「J」プロジェクトというポトを出したことがあります。韓国の仁川沖の干潮の差を利用して潮力発電を起そうというもの。三千万キロワットの電力になるので、韓国では余ってしまします。これをぜひやって日本に持っていくかを考えているときに日韓トンネルの話を聞いたわけです。これなら汽車



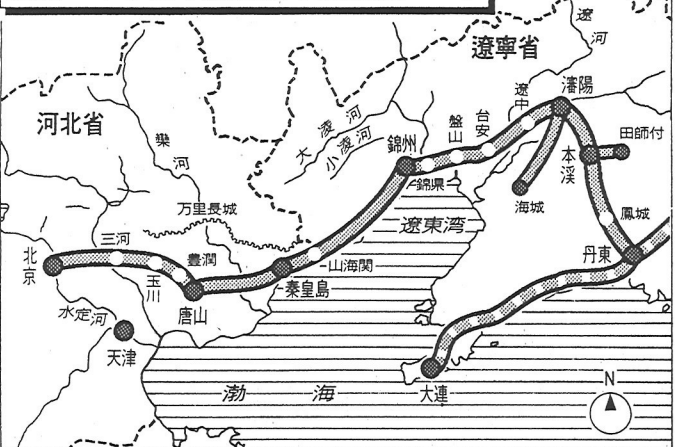
り上げられ、一緒にこの事業を進めたい意向を表明しています。韓国でも盧泰愚大統領が訪日に際して日韓トンネルへの期待を述べています。このプロジェクトは世界平和をもたらすためのものであり、日韓が一つになって世界の共存共栄のために努力していくことを期待します。

神と人のためという敬虔な精神

や自動車のように電力も持つてこれるとね。

話は変わりますが、最初の宇宙飛行士が初めて月へ行って帰還したときに、当時のケネディ米大統領はまず神に感謝したといっています。また、英米のノーベル賞受賞者には敬虔(けんけん)なクリスチャンが多いと聞きます。神に奉仕するという精神が基本になっており、そこに英米の偉大さを感じます。敬虔な態度のない国民というのは、やがて滅んでしまします。そういう意味で、国際ハイウェイは神のため、人類のためという敬虔な精神が根本にあります。これは素晴らしいと思います。技術的には問題ないから、あとは経済的な問題だけ。時間はかかるでしょうが、必ず実現できると思います。

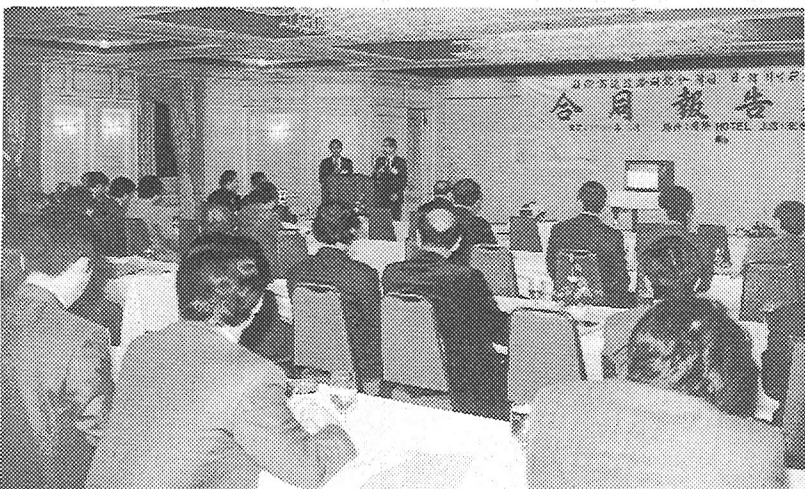
国際ハイウェイ調査団中国踏査ルート



り、中国における国際ハイウェイ建設の重要な一歩になる」と語った。また、中国交通部の銭永昌部長は「中国の国情をよく踏まえて、路線などの調査を積極的に進めてほしい」と中国

ハイウェイへの期待を述べた。

さらに谷藤委員長は今年四月十日からモスクワで開催された世界言論人会議において国際ハイウェイ構想を紹介。その中で谷藤委員長は「日韓両国は中国の協力を得て北へ、西へ、南へと高速自動車のネットワークを広げ、アジアは一つの目標を達成したいと願っている。このハイウェイネットワークがユーラシア諸国の協力の下で、ロンドン、モスクワなど多くのヨーロッパの大都市ともつながり、二十一世紀の早い時期に東



昨年11月、韓国で開催された日韓合同報告

る」と訴えた。もちろん、この構想は世界の言論人だけでなく、ソ連国民に対しても大きなインパクトを与えたのはいうまでもない。

国際ハイウェイは今や世界の人の知るところとなっており、中国、ソ連など多くの国々から期待が寄せられている。日韓トンネル研究会が発足して以来七年間が過ぎたが、同研究会では盧泰愚大統領訪日に合わせて日本政府に「日韓トンネル早期実現に向け

てのお願い書」を提出した。プロジェクトを官民共同事業とかなり幅の広い調査・研究を行って推進できるように要望してつきた同研究会は日韓トンネルへのメドが立ったとして、本実現可能な巨大プロジェクトと